

各部門別事業実施状況

法人事務（事務部）

I 法人本部

1 理事会・評議員会等

(1) 評議員の状況（令和4年度末現在）

評議員の氏名	職 業	評議員選任 ・解任委員会 決議年月日	任 期
天野 隆博	太陽の門家族会 会長	R 3. 6. 4	R3. 6. 14~R7. 6
柴田 和生	(福) 県西福祉会 理事長	R 3. 6. 4	R3. 6. 14~R7. 6
武田 伸六	行政書士	R 3. 6. 4	R3. 6. 14~R7. 6
高橋 政幸	開成町社会福祉協議会 事務局長	R 3. 6. 4	R3. 6. 14~R7. 6
堀内 勇	(福) 児童養護施設 福音寮 理事	R 3. 6. 4	R3. 6. 14~R7. 6
牧野 賢一	(特非) UCHI 理事長	R 3. 6. 4	R3. 6. 14~R7. 6
松木 満里子	Accommo. Care Service (株) 代表	R 3. 6. 16	R3. 6. 16~R7. 6

年度中に退任した評議員（再任された者を除く） なし

(2) 理事の状況（令和4年度末現在）

理事の氏名	理事の役職 常勤・非常勤の別 職業	評議員会 決議年月日	任 期
内田 恵之	理事 常勤 風祭の森 理事長	R3. 6. 14	R3. 6. 14~R5. 6
大友 崇弘	理事 常勤 地域支援センター長	R4. 6. 16	R4. 6. 16~R5. 6
伊藤 崇博	理事 非常勤 (福) 常成福祉会 専 務理事	R3. 6. 14	R3. 6. 14~R5. 6
飯田 美枝子	理事 非常勤 無職	R3. 6. 14	R3. 6. 14~R5. 6

篠崎 登	理事 非常勤 (医)三成会 新百合 ヶ丘総合病院 乳 腺・内分泌外科部長	R3.6.14	R3.6.14~R5.6
小川 陽	(福)唐池学園 旭ヶ丘貴志園 施設 長	R3.6.14	R3.6.14~R5.6

年度中に退任した理事 大川俊哉 (退任年月日 令和4年6月16日)

(3) 監事の状況 (令和4年度末現在)

監事の氏名	職 業	評議員会 決議年月日	任 期
鳥居 富郎	無職	R3.6.14	R3.6.14~R5.6
山田 豊	税理士	R3.6.14	R3.6.14~R5.6

年度中に退任した監事 (再任された者を除く) なし

(4) 評議員選任・解任委員会委員の状況 (令和4年度末現在)

委員の氏名	職 業	理事会 決議年月日	任 期
渡辺 貞	無職	R3.6.14	R3.6.14~R5.6
鳥居 富郎	無職	R3.6.14	R3.6.14~R5.6
高橋 徹	(福)風祭の森 職員	R3.6.14	R3.6.14~R5.6

年度中に退任した委員 (再任された者を除く) なし

(5) 理事会開催状況

第101回理事会 (5月23日6名中5名出席)

- 議題：1 令和3年度事業報告案
2 令和3年度決算報告案
3 運営規程(2規程)の一部改正について
4 育児・介護休業規程の一部改正について
5 理事候補者の推薦について
6 役員及び評議員に係る賠償責任保険補償契約締結について
7 定時評議員会の招集について

報告事項：① 理事長の職務執行状況報告について

第102回理事会 (11月10日6名中全員出席)

- 議題：1 令和4年度上半期事業報告案
2 令和4年度上半期決算報告案

- 3 太陽の門電子カルテシステム導入請負契約の締結について
- 4 令和4年度第一次補正予算案について
- 5 社会福祉法人風祭の森常勤職員就業規則、社会福祉法人風祭の森常勤職員給与規程及び社会福祉法人風祭の森非常勤職員就業規則の一部改正について
- 6 評議員会の招集について

報告事項：① 理事長の職務執行状況報告について

第103回理事会（3月13日6名中4名出席）

- 議題：1 社会福祉法人風祭の森定款の変更について
- 2 令和4年度第二次補正予算案
 - 3 令和5年度事業計画案
 - 4 令和5年度予算案
 - 5 風祭事業部長の選任につて
 - 6 給食業務委託契約の締結について
 - 7 評議員会の招集について

報告事項：① 神奈川県指導監査の結果について

(6) 評議員会開催状況

第73回評議員会（6月16日7名中全員出席）

- 議題：1 令和3年度計算書類及び財産目録の承認について
- 2 理事候補者の選任について

報告事項：① 令和3年度事業報告の内容報告について

- ② 運営規程(2規程)の一部改正について
- ③ 育児・介護休業規程の一部改正について
- ④ 役員及び評議員に係る賠償責任保険補償契約締結について

第74回評議員会（3月22日7名中全員出席）

報告事項：① 令和4年度第二次補正予算

- ② 令和5年度事業計画
- ③ 令和5年度予算
- ④ 風祭事業部長の選任について
- ⑤ 給食業務委託の締結について
- ⑥ 神奈川県指導監査の結果について

(7) 監事監査

令和4年5月12日実施

指摘事項なし

(8) 理事、監事、評議員の異動

退任 6月16日 大川俊哉 (理事)

新任 6月16日 大友崇弘 (理事)

2 定款変更申請

なし

3 法人登記変更申請

資産総額の変更登記 (6月22日)

4 医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査

令和5年3月24日実施 (小田原保健福祉事務所)

指摘事項なし

5 神奈川県による指導監査

令和5年1月12日実施

指摘事項なし

II 事務部

1 人事・労務

(1) 入・退職

入職者 : 医師1名 看護師4名 介護士2名 相談員1名 地域活動支援員1名
児童発達支援1名 ランドリー・清掃員2名 (計12名)

退職者 : 医師2名 看護師5名 介護士2名 理学療法士1名 管理栄養士1名
デイ看護師1名 デイ介護士2名 放デイ介護士1名 相談員1名
地域活動支援員2名 児童発達支援3名 登録ヘルパー2名
ランドリー・清掃員3名 (計26名)

(2) 職員配置状況 (令和5年4月1日現在)

・施設部	常勤	48名	非常勤	16名	嘱託	2名	計	66名
・風祭事業部	常勤	15名	非常勤	4名	嘱託	1名	計	20名
・地域支援センター	常勤	11名	非常勤	12名	嘱託・登録ヘルパー	3名	計	26名
・事務部	常勤	5名	非常勤	8名	嘱託	1名	計	14名
・合計	常勤	79名	非常勤	40名	嘱託等	7名	計	126名

(3) 職員求人状況等

・求人方法

ネット・雑誌広告掲載・新聞折込広告掲載、ハローワーク、人材紹介事業者等

・面接人数

医師3名、看護師10名、保育士2名、地域支援員1名、清掃作業員2名、
ランドリー作業員2名、ドライバー2名

2 経理状況

経理規程に沿った健全な財務運営や会計処理に努め、毎月の経営状況及び予算執行状況から必要に応じ補正を行ないました。

R4年度の経営状況としては、事業活動収入については、入居者が充足されたこと等により、全体で昨年対比2,000万円ほどの増となっております。一方、事業支出では、人件費1,100万円余りの増、事業費900万円余りの増、事務費500万円弱の増で、結果、減価償却費を除いた事業活動そのもののトータルで、前年より2,500万円ほどの増となっています。

他に、修繕費積立の積み増しを含めた、事業活動外の収支はおよそプラス5,000万円ほどで、資金収支計算書上の次期繰り越し金は約3億7,000万円となっています。

【有償ボランティア実施回数】

新型コロナウイルス感染対策により実施せず

3 施設設備等の整備・保全

一般修繕など

・304、309号室エアコン修理	176,000円
・駐車場看板取り付け	154,000円
・吸引設備用ポンプ交換	1,210,000円
・機械浴槽修理（デイサービス）	264,249円
・ボイラー修理	199,100円
・厨房給気ファン用減圧弁交換	361,900円
・消火水槽ボールタップ交換	117,150円
・誘導灯交換	172,700円
・消火器交換	288,330円
・エアコン修理（理事長室、診療部長室）	181,500円
・デイサービス利用者送迎用ハイエース購入（7年リース）	6,375,600円
・酸素マニホールド更新	2,970,000円
・駐車場防犯灯設置	654,208円
・機械浴槽修理（3階）	103,750円
・エアコン修理（302号室、家族室）	170,500円
・厨房機器修理	131,604円
・レセプト用パソコン新規リース（5年）	2,750,000円
・顔認証付きカードリーダー	385,000円
・機械浴槽修理（デイサービス）	140,481円

・パソコン購入（くまさん教室）	132,000円
・電動ベッド購入（デイサービス）（5年リース）	541,200円
・電子カルテとレセプト用ソフトの連携ソフト	341,000円
・電子カルテと医療用画像システムとの連携ソフト	165,000円
・電子カルテと薬局システムとの連携ソフト	1,628,000円
・陶芸窯処分	167,000円
・森の宿不要物品処分	339,000円
・粗大ごみ処分	176,000円
・パソコン購入（風祭事業部）	116,387円
・加湿器修理（3階S側ダイルーム）	233,860円
・森の宿ハウスクリーニング	175,450円
その他	
・施設周辺草刈等環境整備	536,379円

4 節電対策

電力料金高騰もあり節電への取り組みの一環として昨年に引き続き、夏と冬に節電強化期間を設け節電に取りくみました。

5 永年勤続表彰

対象者 5名

6 その他

建築基準法12条定期検査報告書提出

【業務管理】洗濯・ごみ運搬処理・清掃業務

- ・入居者衣類、タオル類の洗濯業務、ゴミの運搬処理業務をおこなっており、特に大きな問題はありませんでした。
- ・日常清掃業務を非常勤職員による直轄業務で実施することにより、施設内の衛生環境強化が図れています。

施設部

<重症心身障害児（者）施設>

(生活支援課)

1 利用者の在籍状況等について【p27表1】参照

- (1) 長期入所者 48名(準超重心9名、その他39名)
- (2) 中期入所者 在宅重心児者が1か月程度の範囲で利用
実人員4名 利用延べ日数625日(前年延べ690日)
- (3) 短期入所者 在宅重心児者が休養等様々な理由で利用
実人員23名 利用延べ日数322日(前年延べ349日)

2 利用者の生活支援について

(1) 支援体制

医師、生活支援員、看護師による日々の申し送りや連絡、必要に応じてリハビリスタッフや栄養士などを交えた検討を行い、福祉と医療が連携した総合的な支援を行っています。

利用者のチームをN側・S側の2チーム体制として、チームに分かれて支援を行う事で、きめ細やかな介護・看護体制を維持しています。

(2) 個別支援計画

担当者会議においては生活支援、看護、リハビリ、栄養の面からモニタリングを行ない、個別支援計画を立案し、基づく支援を実施しました。

(3) 日中活動等【p29表4～6】参照

日中活動については、春先・秋のドライブ外出の実施や、グループ活動での小田原周辺へのドライブ外出の実施など、施設外への活動を可能な範囲で実施しました。また、昨年度に引き続き、2名～4名の小集団活動や、10名規模の4階テラスを使用した活動など、感染対策を工夫して利用者支援の充実を図りました。

① 日中活動

入浴日(火・木・土)以外の午前と午後の時間に、個別や集団による活動を実施しました。

主な活動としては、手遊び、水遊び、歌遊び、光遊び、ハンモック、マッサージ(リラクゼーション・ストレッチ)、アロマセラピー、壁面やポスター作り、絵本、お洒落タイム、エプロンシアター、カラオケ大会、散歩、ミラアカ(未来は明るい会)と称した借り物競争など、スタッフが創意工夫をした活動に務めました。

また、好みが合う利用者同士のクラブ活動も行っており、美味しんぼクラブ

(飲食サークル)、粗大運動、光×リラクゼーション、め～でる会(園芸)、音楽サークルなども実施しています。

活動の際には、個々の利用者の笑顔写真を撮り、スタッフのメッセージを添えて、家族や成年後見人にお渡ししています。

② 行事等

毎月の誕生会、端午の節句、七夕祭り、かき氷大会、花火大会、盆踊り大会などの行事を行い、季節感を味わっていただきました。日中活動内では、飾りや壁面を利用者にも作ってもらうなど、行事当日だけではなく、行事までの間もワクワクしながら過ごしてもらえるよう工夫をして活動を行っています。

③ 外出

小田原周辺、施設周辺の散歩やドライブの外出を実施しました。

④ 小集団の活動(家族室などの利用)

食事や喫茶、フラワーアレンジ、光遊び、音楽サークルなど、3～4人の小集団でのお楽しみ会を実施しました。施設内では味わえない、ゆったりとアットホームな余暇活動を実施しました。

(4) ボランティア

例年ボランティアの導入を行い、人的な協力をいただくと同時に、施設職員とは違う個別支援の場を提供するように心がけていますが、感染症対策により直接的なかわりボランティアは受入を中止し、間接的な地域ボランティアのみ受入としました。

(5) リスクマネジメント【p43「3 事故・ヒヤリハット件数」】参照

事故・ヒヤリハット報告の提出の促進、分析と対応策の強化・徹底を行い、安心・安全な生活の確保に務めました。特に上半期では、抜薬事故が13件発生していたため、緊急のカンファレンスを重ね内容を周知することで、下半期には抜薬事故が4件と件数自体は減少しています。一定の効果はあったと考えますが、引き続き個人が高い意識をもって対応するように、定期的な注意喚起やマニュアルの確認を行っています。

全体としては、上半期と下半期を比較すると、事故は大幅に減、ヒヤリハットは、微増となっています。日々のヒヤリハットの報告がしっかりとされており、事故件数の減少にもつながっているのではないかと考えます。今後も、個々の大小を問わず事故・ヒヤリハット報告をすることに意義あることを念頭におき常に検証を行い、リスク委員会で法人全体への周知や予防策を周知し生活上の危険回避にも務めてまいります。

3 実習生・研修生の受け入れ【p48「5 実習生の受け入れ状況」】参照

保育士及び介護福祉士実習生を受け入れました。次世代の専門職育成と実習指導することによる職員側のスキルアップ及び現在の利用者支援を振り返るために有意義な

ものとして取り組みました。受入に際して、今年度も引き続き実習開始 2 週間前より体温や体調チェックを必須項目として実習期間も感染対策を万全なものとして実施しました。

(看護課)

1 利用者の健康管理について

(1) 日々の全身状態の観察

日々の検温、脈拍測定による全身状態の確認に加え、血中酸素飽和度を測定し、呼吸状態の把握に努めました。また、排泄や食事量のチェックの他に定期的な血圧や体重測定、血液・脳波・レントゲン検査を実施しました。加えて、入浴や排泄ケアなどを通し、全身状態の観察を行い、個々の状態に合わせたケアを行うことにより、悪化を予防し、管理を行いました。

(2) 通院など

小田原市立病院(循環器科、内科、消化器内科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、耳鼻咽喉科)、山近病院(循環器科)、静岡てんかんセンター、徳洲会湘南藤沢病院、岡部整形外科、戸沢皮膚科、日下部皮膚科など延べ 16 名が専門医療の受診を行いました。訪問歯科は、延べ 214 名が歯石除去などクリーニングを受けました。

学齢の利用者が 12 月に長期入所され、感染状況や本人の体調を確認しながら、ご家族、学校との話し合いを通し、合計 6 日登校し、卒業式に出席しました。

(3) 感染予防について

・新型コロナウイルス感染症対策

地域の感染情報の提供や、手洗いや 3 密を作らないなど感染予防の基本に対して適宜朝の会などの機会に注意喚起を行うと共に、前年度行った基本的知識の研修を基に、手洗いや PPE の着脱など実技に対する研修を行いました。また、感染対策委員会やコロナ対策委員会を月 1 回程度開催し、感染状況や対策の確認、事業運営など話し合い、情報の共有、決定をしました。

職員は出勤時と勤務前の検温の記録を残して管理をすることに加え、食事介助時などエアロゾル発生のリスクのある場面ではゴーグルを使用し、予防対策の強化を行った。ワクチン接種は、7月に4回目、12月に5回目を行いました。職員・家族の感染や濃厚接触があった場合は、法人 BCP に基づき、人員調整を行うなど感染拡大防止に務めました。

利用者に対しては、1日2回の体温測定と酸素飽和度測定で、健康チェックを実施しました。また、S側、N側の交流を制限し、発熱などがみられた場合は、個室管理、居室管理とし、感染拡大を予防したが、活動への支障が最小限になるように場所を分けるなど工夫をして対応しました。ワクチン接種は、モニター管理等による副反応の観察を行いながら7月に4回目、11月に5回目を行いました。

ボランティア含め、外部からの入所スペースへの立ち入りは昨年より継続して中止しました。面会については、基本は窓越として、月平均 34 件ほどに実施しました。緊急性など状態に合わせて、他の利用者との交流をしない方法で直接面会も行いました。緊急性を考えた場合以外の外来受診は控え、訪問歯科についても流行に合わせて中止し、延べ

74名が受診しました。

短期入所者は感染状況に応じた受入調整を行い、短期入所者は入所期間中、中期入所者は1週間個室対応とし、食事介助などエアロゾル発生リスクのある場面では、アイソレーションガウンも着用し、さらなる感染予防を徹底しました。

感染対策を行っていましたが、11月24日前日夜2名の利用者に発熱あり、抗原検査を行ったところコロナ陽性が判明し、全員検査を行い22名の陽性が判明しました。その後12月1日までに36名の利用者、職員は断続的に、22名が感染し、クラスター発生として報告し、利用者家族、後見人全員に電話連絡をするとともに、県のクラスター班、保健所と連携を取りながら重症者発生無く12月22日に終息宣言となりました。

・インフルエンザ感染症対策

インフルエンザワクチン接種を利用者、職員共に12月に行い、インフルエンザの発生は見られておりません。

・その他の感染症対策

血液検査の結果B型肝炎の抗体を持っていない職員に対して、合計3回のワクチン接種を行いました。

他、尿路感染症やウィルスの確定しない風邪などによる発熱が1~2月に1~3名ほど見られましたが、水分調整や抗生剤の投与などで軽快しました。

2 専門的な知識・技術に支えられた看護の提供について

毎月行う看護課会議、ケースカンファレンスで日々の看護を振り返るとともに、個々の経験、知識を持ち寄り、個別性のある安全・安楽に配慮した看護について話し合い、日々の看護に反映しました。

検討内容

- ・電子カルテの導入について
- ・コロナ対策など感染対策について
- ・業務改善について
- ・新しい長期入所者について
- ・光熱費の上昇に伴う節電、オムツの使用方法など節約について 他情報共有
- ・BCPについて
- ・権利擁護や虐待防止法について
- ・各委員会からの報告 他

研修は、施設内外問わず、新型コロナウイルス感染症拡大予防のために、Web研修などリモートを活用し、栄養や感染、災害に対する内容の研修に参加しました。

重症心身障害児者認定看護師を取得した看護師により、研修を通して学んだことを中心に他の看護師に伝達することで全体の看護の向上を図りました。

3 医療事故について

日々の看護、関わりの中でヒヤリハットが発生したらすぐに報告、記録を行うとともにその日のうちにカンファレンスを通して分析、評価を行い、その後のケアに活かすよう必要時

に応じて看護カンファレンスなどを通して情報を発信し、看護の提供に結び付けました。特に事故については、聞き取りも行い、方法の見直しに結び付けられるように分析、評価をしっかりと行ないました。また、発生後すぐにご家族に連絡することと、カンファレンスの内容など伝え、対応をとることで、継続した信頼を得ることに努力しました。

(診療課)

<リハビリ外来等>

理学療法士2名・作業療法士2名の体制で行っています。利用者間の密を避けた対応や、入所・外来間を職員が行き来する際の管理等、感染対策を継続しました。

デイサービスや放課後等デイサービスの利用者についても車椅子の相談や姿勢、活動等について実際に現状を確認しながら、随時対応しました。

毎年行っている新任職員研修は、リハスタッフが講師となり、重症心身障害児者の身体的特徴や車椅子、トランスファー、摂食に関する研修を行いました。

1 リハビリ外来

リハビリ外来利用者は、理学療法に82名(6歳未満8名、18歳未満32名、18歳以上42名)が受診しています。新規受け入れは7名でした。

前年同期と比較すると、理学療法は、3,540単位から2,905単位と635単位減となっています。

作業療法は73名(6歳未満8名、18歳未満33名・18歳以上32名)が受診しています。新規受け入れは9名でした。前年同期と比較すると、1,756単位から2,583単位と827単位増となっています。

2020年度から行っている未就学児のプール活動も実施することが出来ました。ただ単に遊ぶのではなく、浮力や水圧等を活かして、負荷や姿勢の調整、身体への感覚によって、普段行えない運動感覚経験をする場となりました。また、身体や認知的な特徴を活かした遊びの提案もできました。

学校・関連施設職員等からリハビリ見学の希望をいただき、Zoom等を活用したオンライン見学を実施しました。

また、補装具外来においても養護学校とZoomを介して相談しながら作製を進めることができました。

2 入所者へのリハビリ

支援職員とリハビリ職員が協働で行う日中活動を継続して行いました。下半期には、各入所者の身体機能に合わせた運動方法を提案することを目的として、「釣り大会」をしながら自己紹介クイズを実施しました。また、「バーチャルディズニーアトラクション(4DXの体験)」で、感覚を刺激した活動を行いました。日常の活動だけでは味わえない臨場感を感じることができ、笑顔や驚きなど多様な表情を引き出すことができました。

リハビリ状況や今後の課題、検討事項についてリハビリ職員間の情報共有に務め、その内

容を基に個別支援計画の確認とりハビリ実施計画の立案を行い、より良い支援に取り組みました。

<栄養管理>

1 給食管理業務

利用者及び職員の健康増進と、食の安全および嗜好や季節感に配慮した食事提供に努めました。

- (1) 月1回の行事食、ご当地メニュー、選択メニュー、お誕生日ケーキの提供を継続するとともに、委託給食業者の協力を経て新たに“季節の果物”の提供日を月1回、設けました。
- (2) メニューはサイクルメニューの中に様々な旬の食材を取り入れることで、年間を通して四季折々の味覚が楽しめるよう努めました。
- (3) 毎月、アンケートへの記載内容について給食委員会で公表し、意見や要望については委員会メンバーや委託給食会社と対策を検討し、食事内容へ反映させました。
- (4) 医師・管理栄養士の検食簿の記録から、見直しが必要な献立や調理方法等については検討を行いました。

2 施設設備・衛生管理業務

衛生管理の徹底を図り、安心・安全な食事提供に努めました。

- (1) 委託給食会社による給食提供に対し、安全・衛生についての管理・指導を行いました。
- (2) 厨房設備については必要に応じて点検や修理の手配を行い、適切な管理に努めました。
- (3) 定例の厨房内環境調査により、厨房の衛生状態について検査をしました
(6・12月)
- (4) ヒヤリ・ハット(13件/年)の発生時に、再発防止に向けた原因分析と対策の検討を行いました。
- (5) 新型コロナウイルスの施設内感染を防止するため、厨房およびヴィエント(食堂)、その他各現場内の感染予防対策について検討・実施をしました。また、厨房における濃厚接触者等の発生時には、マニュアルに基づき迅速に対応しました。

3 栄養管理業務

定期的な病棟訪問や他職種との連携により、適切な栄養管理を行い、利用者の食事療養を推進するよう努めました。

- (1) 入居者の栄養ケア計画書を作成し、個別支援担当者会議にて他職種と栄養ケアについて協議の上、ご家族へ計画書を送付しました。(2回/年)

- (2) 入居者の栄養スクリーニングと栄養管理計画書を毎月見直し、診療報酬改定に沿い、作成しました。
- (3) 栄養や食形態などについて、他職種と適宜カンファレンス・打ち合せ等を行い、入居者個人の健康状態や嚥下機能に応じた食事を検討しました。
- (4) 主要な経腸栄養剤の終売に伴い、給食委員会で公表の上、他職種と連携し、新たに適切な経腸栄養剤を検討・選択しました。

4 その他

- (1) 約束食事箋の内容について見直しを行い、令和4年度版を作成しました。
- (2) 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、研修会への参加はオンラインセミナーを中心としました。また、専門書の購読等により、専門職としての知識・技術の向上に努めました。

以上、適正な栄養管理を推進し、衛生的に管理された安全でおいしい食事提供ができるよう、各項目を徹底の上、福祉・医療施設の給食管理の安定に努めました。

<薬 局>

1 医薬品適正使用と情報提供

- (1) 処方せんに基づき、利用者、職員の疾病治療のための薬を正確に調剤しました。
- (2) 薬事委員会を開催し、採用医薬品の検討や更新、備蓄量、品目を調整しました。
- (3) 随時、医療情報誌・公文書・メーカー通達書類、インターネット等に目を通し、情報を収集し、特に重要と思われるものに関しては、他の医療従事者と情報を共有しました。
- (4) 看護師向けに、医薬品の適正使用のための説明会を開催しました。

日付	題名
7/15、9/16	救急カート内の薬について
8/22 他3日	「エピペン」について

2 短期・中期利用者の持参薬の適正対応。

- (1) 短期・中期利用者の入所時の面談に立ち会い、看護課と連携して持参薬の管理を行いました。また、ご家族に対し、薬剤情報、保管管理、服薬方法などの指導を行いました。
- (2) 持参薬について、調剤方法の要望や不明点の確認を薬局へ問い合わせることにより、地域連携に貢献いたしました。

3 在庫管理の徹底

- (1) 医薬品等の使用期限の調査を実施いたしました。(実施月：7月)
- (2) 医薬品の在庫量を把握し、過剰在庫をなくすために棚卸しを行いました。(実施日：9/30、在庫金額(薬価換算) 1,396,318円(183品目))

- (3) 過剰在庫や廃棄する医薬品などの無駄を減らすために在庫管理を徹底し、医薬品購入費削減に努めました。

風祭事業部

<デイサービスセンター>

1 利用者の状況【p33表7】参照

令和5年4月1日現在の登録者数は、重症心身障害者24名、身体障害者13名、知的障害者1名、計38名となっています。

前年同期と比較して、重症心身障害者が1名減、身体障害者数が1名増となりましたが、合計の登録者数は変わりありません。

また、令和4年度の延べ利用者数は、3,125人で、新型コロナウイルス感染症の影響等から減少したものの、前年度と比較して37人の減。前年度対比98.8%と僅かな減となりました。

2 個別支援計画

個別支援計画について、4月と10月に計画の内容を職員間で共有する会議を開催し、計画的な支援が行えるように取り組みました。

また、計画作成に向けたケアカンファレンスを7月と1月に実施し、意思決定支援や身体拘束の適正化について、話し合いを行いました。

さらに、9月と3月には、新たな個別支援計画（案）の内容等を、利用者又は家族に確認していただきました。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、面談については、希望される方のみ実施し、それ以外の方については、書面で確認していただきました。

3 日中活動等【p33表8】参照

日中活動等については、利用者が主体的に参加し、楽しめるような活動を企画、実施しました。

ア 日中活動

制作活動としては、季節を感じる作品を作ることとし、技法や素材を工夫して個別又は集団で共同して一つの作品を作成し、ダイルームや廊下の掲示板に展示しました。

スポーツ活動では、的あてやボウリング等を行い、利用者が参加しやすいようにボールを転がすスロープやボールを飛ばす道具等を利用するなど、主体的に参加できるよう工夫しながら実施しました。

さらに、利用者主体で活動内容を決める「リクエスト活動」では、アロママッサ

ージやクイズ大会、音楽活動等を実施し、入浴剤を使用した足浴が人気となるなど、毎回楽しんでいただくことができました。

イ 行事

季節行事として、6月に利用者ごとプチケーキかプリンを選び、トッピングをする「料理活動」、8月には「夏祭り週間」として金魚すくいや、あてくじ等を実施しました。

さらに、「ハロウィン週間」や「クリスマス週間」など、利用者が楽しめるような企画・運営を行いました。

4 人材育成

法人が実施する階層別研修や各種研修への参加はもとより、職員会議を月1回、土曜日に実施し、介護技術や不適切なケア等について、学び合う機会を設けるなど、支援の質の向上に努めました。また意思決定支援等など、外部研修にも積極的に参加しました。

<放課後等デイサービス「きゃんばす」>

1 利用児童の状況【p33 表9】参照

令和5年4月1日現在の登録児童は、小田原市13名、南足柄市2名、箱根町1名、計16名となっています。

前年同期と比較して、新規登録6名、卒業等での契約終了が5名あり、登録児童数は1名増となっています。

また、延べ利用児童数は、1,188名で、前年度同様に新型コロナウイルス感染症の家庭内感染などの影響等から減少したものの、前年度と比較して6人の減。前年度対比99.5%と僅かな減となりました。

2 個別支援計画

より細やかな支援を目指し、利用児童の支援内容を検証する、モニタリング会議を四半期ごとに実施しました。会議では、計画の進捗状況や支援の方向性等を確認した他、日常の記録や関係機関の情報から本人の「ストレンクス(長所)」に着目し、それを活かす支援方法などを話し合い、計画の見直しに反映しました。

また、身体拘束の状況なども振り返り、拘束の最小化や解除に向けての工夫など、本人の心身の状態や機能と合わせ評価・検討を行いました。部署内で話し合いを重ねることで、障がい児の人権に関して職員一人ひとりの意識を高めることにも繋がりました。

3 日中活動【p34 表10】参照

豊かな表現力や自己決定の力を育むために、さまざまな遊びや体験を通して、「人との関わり」や「気づき・発見」ができる場面づくりに取り組みました。

具体的には、活動の中で感触や形などが異なる素材を使用することで、その違いに気づいたり、感じたことを本人なりの表現で伝えたりすることができ、のびのびと活動に参加する姿が見受けられました。

また、活動プログラムでは、夏には浴衣を着る機会を設けた他、冬には3年ぶりに調理活動を企画し、安全な食形態や衛生的な調理環境などを、リハビリや管理栄養士とも検討し実施しました。初めて手にする調理器具や食材に興味津々の児童も多く、家族からも大変好評でした。

その他、自己の能力を十分に発揮できるように、個に合わせた姿勢づくりや適切な歩行方法等、リハビリなどの専門職と連携し日常生活能力の向上に務めました。

4 家族支援

家族のレスパイトケアやきょうだい児の学校行事等への参加ができるように、依頼があった際には可能な限り臨時の受け入れを行いました。

また、医療的ケア児の通学に付添う家族の負担軽減を図るため、「小田原市ケア付き通学支援事業」に加え、令和5年2月より「県立特別支援学校医療的ケア児通学支援事業」を新たに受託し、サービスの充実を図りました。

さらに、不安や悩みを抱える家族との個別面談を実施し、その思いや児童の様子を共有するとともに、必要に応じて関係機関と連携し、問題解決に向け取り組みました。

今年度は、児童の体重に関する相談が複数あり、個々の健康状態に合わせた食事が摂れるように、法人内の管理栄養士等と補食や食事内容などを検討し家族に提案をしました。

5 地域支援

コロナ禍においても、地域とのつながりが希薄にならないように、感染状況を見計らいながら近隣の公園や商業施設に積極的に出かけました。

公園では、近隣の方と挨拶を交わしながら散歩をしたり遊具で遊んだり、また、コンビニなどの店舗の他、郵便局にも出かけ窓口でやり取りを意識しながら手紙を出すなど、地域の人との交流を図ることができました。

今後もいろいろな場所で人と関わり、新たな体験ができるような外出プログラム等を企画してまいります。

6 人材育成

法人内部の研修参加に加え、部署内で学びたいことを出し合い、年間計画を立て、月に一回程度研修を実施しました。利用者個々の特徴を捉えたケア方法を学び合い共有することで、統一した支援を提供することや支援の行き詰まり感を解消することができました。

また、自立支援協議会等の外部研修にも参加し、組織内にはないスキルや考え方など、新たな学びを得られる機会となりました。

地域支援センター

<ヘルパーステーション>

1 利用者の状況

令和4年度は、障害児者 48 名にサービスを提供しました。(内訳:肢体不自由児 2 名、身体障害者 16 名、重心児 8 名、重心者 11 名、知的障害者 7 名、視覚障害者 3 名、精神障害者 1 名)

新規契約者は知的障害者1名でした。

契約解除者はサービス提供区域外へ転居された重症心身障害児、施設入所された身体障害者各1名ずつの計2名となっています。

2 利用実績【p35 表11～表13】参照

(1) 居宅介護事業では、昨年度の 982 時間から今年度は 1001 時間と 19 時間増加しました。

要因として、病気の進行や加齢に伴う介護量の増加から、1回のケア時間の延長や利用頻度の増加によるものと考えます。

また、その内あんしんネット利用時間は昨年度の 175 時間から今年度は 155.5 時間と約 20 時間減少しています。要因は、専門的支援を要する方の支援方法を整理・可視化することにより、他事業所による支援を可能にし、引継ぎののち、登録解除に至ったことによることが挙げられます。今後も、支援困難ケース等を受け入れ、支援方法を確立し、他事業所への移行支援等に取り組めます。

(2) 移動支援事業は昨年度の 290 時間から今年度は 534 時間となっています。

約 240 時間の大幅な増加要因として、今年度新規登録された方(障害特性により2人介助)に対する長時間支援の提供や、新型コロナウイルスに対する感染不安の軽減による派遣依頼の増加が挙げられます。

(3) 同行援護サービスでは、昨年度の 13.5 時間から今年度の 11.5 時間となっています。

(4) 日中一時は、昨年度の 17 回から今年度は 27 回となっています。

(5) 福祉有償運送は、昨年度 199 回から今年度は 240 回となりました。

走行距離では昨年度の 1686.8km から今年度は 1483.1km となりました。

3 関係機関との連携

ケア会議やカンファレンスに積極的に参画し、関係機関との連携を図り、利用者本人及びご家族の状況の把握に務めました。

今年度は、あんしんヘルパーネット利用者の他事業所への引継ぎを含め、計画相談員や行政をはじめとする関係機関と会議が多くありました。

4 多様な障害種別への対応

既存利用者(精神疾患、視覚障がい、強度行動障がいなど)の他に、今年度は難病(網膜色素変性症、プラダーウィリ症候群)がある方への支援も提供しました。

関わり方や本人が気にされている事、不穏になる経緯、環境などをアセスメントし、適切な支援に結びました。

5 事業の受託

(1) 障害福祉サービス等地域拠点事業（あんしんネット）

利用者の登録状況は、10名となっています。(内1名新規登録、1名他事業所移行)
他事業所移行にあたっては、登録者のニーズ整理、支援方法などを表にまとめ、統一した支援が出来るよう本人、関係機関と話し合いを重ね取り組むことが出来ました。

(2) 在宅障害者等療養支援事業（在宅療養支援）

神奈川県障害福祉課の依頼に基づき、今年度は1件の派遣提供を行いました。対象者の障がい特性を踏まえつつ、緊急時対応として、迅速かつ適切な支援提供に務めました。

派遣にあたっては、神奈川県医療危機対策本部室クラスター対策班による、ガウンテクニック講習や感染症についての理解や留意点などを確認しました。

また、防護服、防塵マスク(N95マスク)、手袋、フェイスシールドの4点セットを常備し、派遣要請時には、即座に対応できるよう務めました。

(3) 医療的ケア通学支援事業（車輛）

令和5年1月に小田原支援学校と契約を結び、自宅から学校までの通学支援を提供しました。医療的ケアを必要とするため、添乗する看護師とも連携し、送迎中の支援方法や留意点を確認するために、家族・学校との情報共有及び協力体制を確保し、安全に支援が出来るよう務めました。

<相談室>

1 小田原市基幹相談支援センター（小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町より受託）

地域の相談支援の拠点として、地域の実情に応じて以下の業務を行いました。

(1) 総合的、専門的相談の実施

障がい分野に関連する他分野・多職種からの相談、専門的支援を要する方への対応、緊急時を含む困難ケースに対して、支援課題の整理や専門的助言、アウトリーチ等の伴走支援、後方支援（支援者支援）を展開しました。これらの実践を通じて、「複雑・多様化するニーズへの対応・多様な制度の活用」「専門的ニーズのある方に対する支援」「緊急時に対応する支援体制」「関係機関との連携」等の充実が必要であることを確認しました。以上の点を踏まえて、重層的支援体制整備に向けたネットワーク構築を図り、どのような相談であっても「受け止め、ニーズを整理し、丁寧につなげる」断らないまるごと相談支援を

展開しています。

(2) 地域の相談支援体制の強化

地域障害者自立支援協議会・5つの専門部会（相談支援部会・就労支援部会・権利擁護部会・子ども部会・精神障害者地域生活支援部会）の事務局運営を通じて、地域課題の抽出・課題解決に向けて官民協働で取り組みました。さらには相談支援専門員の量的な不足等を解消する取り組みとして、相談支援従事者研修の受講者に対する実習対応や事業所の立ち上げ支援等を行いました。その結果、計画相談支援事業所が3ヶ所新規開設しています。また、地域生活支援拠点事業において、緊急時サポート事業の運営事務局を担当し、官民協働で協議・検討を行っています。

(3) 情報収集・発信

地域の支援機関との相互理解、地域の支援体制整備等を目的として関連施策及び地域の社会資源等について情報収集・発信を行いました。また、相談支援事業所及びサービス提供事業所に対するアンケート調査により事業所課題を収集し、抽出された地域課題等については自立支援協議会専門部会等で解消に向けた協議・検討を行いました。

2 小田原市障がい者相談支援事業（小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町より受託）

障がい種別・年齢を問わず、障がい福祉に関する多様な相談に応じるよろず相談支援として、以下の業務を行いました。

(1) 一般的な相談支援の実施

障がい福祉サービスの利用援助および社会資源の活用、権利擁護等の幅広い支援を行いました。また個別支援を通して確認された課題を地域課題としてとらえ、基幹相談支援センターをはじめ、他機関と連携して解決に向けて取り組みました。

(2) 出張相談の実施

箱根町・真鶴町・湯河原町での出張相談会を定期的に実施し、各行政担当者と情報共有及び連携を図りました。地域ごとの実情・課題に応じ、上半期9回、下半期9回実施しました。

(3) ピアカウンセリングの拡充

障がいのある方同士のつながりや支え合い、エンパワメントをサポートするピアカウンセリング（肢体・視覚・聴覚）の活動の機会と場を作り実施しました。視覚ピアカウンセリングは上半期5回・下半期4回、聴覚ピアカウンセリング上半期3回・下半期3回の実施でした。

(4) 地域生活支援拠点におけるコーディネーター機能強化

地域生活支援拠点においてコーディネーターの役割を担い、登録者のアウトリーチによりアセスメントを実施しました。また、行政機関・基幹相談支援センターと協働し事業の体制整備に務めました。

3 県西障害保健福祉圏域 相談支援等ネットワーク形成事業（神奈川県より受託）

相談支援等のネットワーク形成を通じて、重層的相談支援体制を構築し、広域のかつ専門的な支援を行うことにより、障害者福祉の増進を図ることを目的として、以下の業務を行いました。

(1) 相談支援ネットワーク

厚生労働省のひきこもり支援専門官及び就労支援専門官を招聘し、「ひきこもり支援等研修会」を実施しました。障がい福祉・介護保険・医療・教育分野等にも周知し、100名ほどご参加いただきました。講義及び事例の報告、重層的支援体制の構築に向けた多職種混合のグループワーク等を行い支援者としての視点等の学びになりました。

(2) 医療的ケア児等支援体制ネットワーク

令和4年度より設置された「かながわ医療的ケア児支援・情報センター」における今後の動向について情報共有・意見交換を実施しました。その他、小田原保健福祉事務所と共催で小児等在宅医療推進部会を開催しました。県・市町行政・出席委員より、情報提供及び取り組み報告をするとともに、令和5年度の事業計画等を確認しました。

(3) サービス提供ネットワーク

コアメンバーでの会議を重ね、圏域内全ての事業所を対象に「サビ児管連絡会」を開催しました。人材育成をテーマとしてグループスーパービジョンを体験するための演習を実施し、学びを深め合いました。

(4) 地域障害者自立支援協議会との連携

小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町地域障害者自立支援協議会、足柄上地区地域自立支援協議会と連携し、協議会・部会などへの参画、実施事業に対する協力等を通じて、情報の共有を行いました。

(5) 神奈川県障害者自立支援協議会への参画

協議会や相談支援等ネットワーク形成等の取り組み及び活動状況の報告を行いました。また、地域より抽出された課題を制度・施策に反映するために官民協働で協議・検討しました。

4 計画相談事業【p36表14～表15】

(1) 障害福祉サービスの計画相談支援（契約数：147名）

障がい児者の心身の状況、その置かれている環境、障害福祉サービスの利用に関する意向等を勘案し、利用する障害福祉サービスの種類および内容を定めた計画作成及び障害福祉サービス事業者との連絡調整を行いました。また、新規計画相談の依頼を受けた場合には、行政担当者と共に検討し、優先度の高い方から新規受け入れをしています。（前年度契約数：149名）。

(2) 障害福祉サービスの継続サービス利用支援（モニタリング）

(1)の計画相談支援により、支給決定を受けた対象者に対し支給決定の有効期間内において、定期的に利用状況を検証し計画の見直しを行いました。見直し

にあたっては、利用事業所等に訪問し実際の支援場面を確認後、ご本人・支援者、ご家族と面談を実施し、振り返り等を行いました。

(3) 感染症対策等について

(1) 及び(2)について、感染防止対策により、やむを得ない理由がある場合においては、事前にご本人、ご家族、関係事業所等に丁寧に説明し理解を得て、電話、文書、メール、リモート会議等を活用することにより、柔軟に対応しました。

(4) 在宅重症心身障害児者訪問等指導事業（神奈川県より受託）

訪問指導の必要がある対象者とそのご家族に対し、行政担当者・計画相談担当者同席のもと、療育上必要な助言等を行いました。ご本人の支援のみならずご家族全体の課題等を確認・解消に向けた助言等を行いました。今年度は2件の実施でした。

(5) 在宅障害者等療養支援事業(療養調整事業)の実施(神奈川県より受託)

在宅の障がい児者やその家族が、新型コロナウイルス感染症に罹患し、濃厚接触者となった障がい者等又は自宅で療養を行う障がい者等に対して自宅を訪問し状況を確認するとともに、自宅で療養するために必要となるサービス調整を行う事業です。今年度は派遣要請がなかったものの、当法人で受託している在宅療養支援事業と連携して対応しました。

5 当事者目線の障がい福祉推進拠点事業（神奈川県より受託）

中井やまゆり園の利用者の地域生活への移行を支える仕組みを構築するため、民間事業所との連携を図り、県西障害福祉圏域でのネットワーク形成に向けて、以下のように取り組みました。

- (1) 事業候補者及び事業受入候補事業所の情報収集及びリスト作成・管理
- (2) 神奈川県・中井やまゆり園・コーディネーター3者による事業運営検討会議の開催(9回)
- (3) 事業周知及び協力依頼のための既存協議体等への参画(7回)
- (4) 受入候補事業所等の視察見学及び受入調整会議等の開催(7回)
- (5) 地域生活移行支援に向けた支援会議の開催(1回)

6 神奈川県医療的ケア児支援・情報センター業務（神奈川県より受託）

医療的ケア児及びその家族また、その他の関係者（以下「医療的ケア児等」という。）を総合的に支援するため、地域における支援体制の構築、医療的ケア児等を支える関係団体等への支援、医療的ケア児等が直面している課題の分析及び医療的ケア児等の相談に応じ、情報提供や助言、その他の支援を行いました。

令和4年度においては、52件の相談がありました。相談に対しては、迅速かつ適切な対応に務めるとともに、行政及び神奈川県全域の相談員と共有を図り、課題の分析及び支援体制の強化に向けた協議を行いました。

<地域活動支援センター ひまわり>

1 利用者の状況【p37表16】参照

令和5年4月1日現在の登録者数は、南足柄市39名・中井町6名・大井町11名・松田町2名・山北町6名・開成町21名・計85名となっています。その内訳は、精神障がい者57名、知的障がい者16名、身体障がい者2名、就学前児童10名の登録になります。

今年度は、241日開所し、延べ利用者数は1817名でした。

前年同期と比較すると、登録者は6名の増加、開所日数は横ばい、延べ利用者数は1702名から1817名と115名増となっています。

2 日中活動（創作的活動等の機会の提供および社会との交流の促進）

共生社会の実現に向け、今年度も児童部門と成人部門の交流、障がい種別を問わずに参加できる活動に取り組みました。

(1) 成人部門

利用者の主なニーズとして、安心できる居場所、余暇の充実、対人技能や生活リズムを回復したい、新しい生活目標を見出したい等のニーズがあります。これらの利用者ニーズの充足にあたっては、集団活動を媒介としたピア同士の情報交換や支え合いが必要であることから、利用者の強みを活かした活動内容とする為に利用者と職員がミーティングを重ね、プログラムを検討しました。併せて、興味関心やニーズの多様性に応える必要性も加味して、特性の異なる主なプログラムを以下のよう設定・実施しました。

ア 創作活動

今年度は絵画や制作等による利用者の自己表現の機会に加え、住民との交流をねらいとして自治会の文化展に作品を出展。来年度も自治会との交流イベントに定期的に参加してほしいと反響もあり、交流が深まっています。

イ メンタルヘルス情報提供（こころの元気プラス）

障がい受容やリカバリーを支援する観点から毎月実施。利用者間で体験を共有しながら、福祉サービスの活用等について情報共有の機会を設けることにより、自律した生活の動機づけに繋がっています。

ウ あじさいの里親活動

利用者の社会参加、地域交流の促進をねらいとして「あじさいの里親」活動に参画。社会貢献への実感や剪定ボランティアとの交流に繋がっています。

エ ミーティング

プログラムの企画についての意見や利用上のルールの検討等を通じた、利用者間の相互扶助の促進をねらいとして実施。利用者からコミュニケーションの練習プログラム等の企画が発案され、利用者同士の自然な助け合いに繋がっています。

オ オンラインツールの学習会（社会との交流の促進）

利用者同士の交流、余暇の充実、社会参加への動機づけをねらいに、オンラインツールの活用方法を学ぶことを目的として Zoom 交流会を実施しました。

(2) 児童部門（親子通所における家族支援）

親子が家庭で一緒に楽しめるふれあい遊びを多く取り入れました。児童に対する遊びの誘い方や、声掛け等を一緒に体験し、遊びの楽しさを共有することによって、家庭内でも無理なく過ごせる環境づくりを支援するとともに、親子の心身のリフレッシュの機会となっています。また、早期の発達状況にある児童の愛着形成の基盤となる「家族支援」を展開しました。今年度は、対面で相談する場を多く持てたことで、保育士との関係性をより深められ、相談しやすい環境を作ることができています。

3 関係機関・事業所との連携（地域支援）【p37 表 1 7】参照

地域に根ざした事業展開をしていく為に、別表の会議、協議体へ参画しました。

4 ボランティア育成

今年度は神奈川県立吉田島高等学校より教員の社会体験研修を実施しました。当日は成人部門を体験していただき、障がいのある方の地域生活に対する理解促進に務めました。実習後には教育現場に障がいのある方の地域生活について汎化していきたい等の感想をいただいています。引き続き地域住民や関係機関と連携してボランティア育成を行っていきます。

5 普及啓発事業（地域支援）

以下の通り、当センターの紹介や障がい福祉に関する普及啓発を行いました。

(1) ちいきふくし博・ふくしフェア（令和 5 年 3 月開催）

地域住民に障がいのある方への理解を深めていただき、すべての人が自分らしく暮らせるまちづくりを推進する目的で、今年度は県西文化事業等と共催で開催。イベント会場とオンライン開催（自作ホームページ）に加えて、障がいのあるご本人と協働制作したスライドショーを足柄上地区 1 市 5 町の庁舎内モニターで上映し、併せて県西地区の福祉事業所・養護学校・飲食店組合等でチラシの掲示にもご協力いただきました。

さらに今年度は、足柄上地区 5 町の巡回展示も実施し、福祉事業所の作品等を地域の住民にご覧いただく場を設置するなど、官民協働で周知を行いました。ホームページの主な内容は、絵画コンクールに応募された全 136 点の絵画展示（南足柄市長賞、足柄上郡町村会長賞、実行委員賞等の受賞作品含む）・障がいのあるご本人及び事業所の活動紹介・ボランティア募集や事業所見学の案内・地域の情報等としました。オンラインでの絵画コンクール開催により、6,000 件を超えるアクセス数（3 月末日時点）となっています。

また、今年度の新たな取り組みとして、3 月 4 日（土）南足柄市子育て支援

拠点「にこっと」フリースペースにおいて大型遊具を設置する等、子どもの遊び場イベントを開催し、約 200 名の参加がありました。さらなる普及啓発を図り、住民と障がいのあるご本人との新しい繋がりやかかわりを広げていきます。

- (2) 神奈川県立保健福祉大学授業でのゲストスピーカー講師派遣（令和 4 年 11 月）
- (3) おれんぢせえぶピアサポーターとの協働による地域活動支援センターの紹介動画の撮影協力（令和 5 年 2 月）

<南足柄市障害児通園施設「くまさん教室」>

1 開所日時・開所時間

	さくらんぼ組	みかん組
内容	未就園児を対象として、個別支援を中心に、生活習慣の確立や社会性の獲得を目指し、利用児童の早期の育みの場所として、就園準備をしていきます。	就園児童を対象として、集団での適切なコミュニケーションの学びと、児童の相互関係による育ちを期待し、自主性や自律性を養い、就学に向けての準備をしていきます。
開所日時	月曜日～金曜日	火曜日・木曜日・金曜日
開所時間	9：30～12：00	14：30～16：30

2 利用者の状況及び主な行事参加数【p38 表 18～19】参照

令和 4 年 4 月の在籍児童、さくらんぼ組 7 名、みかん組 9 名の計 16 名の利用児童からスタートし、下半期の 10 月にはさくらんぼ組 12 名みかん組 9 名の 21 名、3 月はさくらんぼ組 13 名、みかん組 12 名登録児童の利用となりました。今年度の新規登録利用児は幼稚園・保育園との併用児童が増加する傾向となり、未就園児対象としてクラス分けしていたさくらんぼ組の 5 割の方が週に 1～2 回の利用頻度の併用児童でした。次年度もさくらんぼ組 12 名・みかん組 4 名でスタート予定ですが、さくらんぼ組は 9 割の方が併用利用を希望されています。

3 発達支援

今年度は、室内でも子ども達が心身共に発散できるようなプログラムを強化し、個別教材も充実させることで、職員と利用児童のやり取りが増加、職員一人ひとりが「子どもの姿」を適切に捉える視点を持ち、必要な「手立て」を考えながら支援に活かしていく事に繋がってきています。また、年間を通じて家庭内にもあるタオルを使った様々な遊びを展開することで、保護者とも遊び方を共有し合い、親子の触れ合いの一助となり愛着関係も深まっていったようです。さらには限られた利用回数の児童に対しては、小

集団での簡単なルールのある遊びを繰り返し体験することで、児童の相互の学び合いや適切なコミュニケーションの取り方を知る機会となっていました。

4 家族支援

ご家族の不安や悩みに寄り添い、お子さんの「育ち」を確認し合うこと（連絡帳・送迎時の対話等）に重点を置き、併せて保護者会や親子参観日等の開催を継続することで、保護者同士の気軽な交流と就園・就学に対する情報交換も行うことができました。また、併用児童の増加により、保護者会等に参加が難しいご家族に対しては、短時間からの事業所参観を促すことで、我が子の状況を知る機会となるように支援しました。さらには、保護者の移行に対する思いに寄り添い前向きに行動できるように支援しつつ、就園予定の幼稚園や教育委員会と保護者との関係調整にも務めました。

5 地域支援

児童やその家族が知りたい地域の子育て・保育・教育に関する身近な地域資源の情報発信をするように務めました。

また、毎月1回の「南足柄市障がい児業務連絡会」に参画し、関係機関と情報の共有・連携を図りました。さらには、幼稚園・保育園・認定こども園との併用利用児童の増加に伴い、地域移行に関しては、定期的に南足柄市の巡回支援員とのカンファレンスの場を設けると共に、個々の状況に応じ各機関との連携を図れるようにしました。その他、定期的に地域のボランティアの方々と児童の触れ合いの場を設けることにより、相互交流の良い機会となっています。

6 移行支援

就園児童の中で、適応が難しい児童に対して移行がスムーズにおこなえるように、保護者や通園先の幼稚園との連携を図りながら支援をおこなっています。具体的には公立幼稚園との併用児童に対して、定期的に心理士・保育士が訪問し、通園先の園の困りごとに対する具体的な支援方法や有効な手立て等を助言しました。また、保育園・幼稚園側からの紹介や保護者からの希望で利用を開始された利用児に対しては、個々の状況により事前に通園先からの状況把握をさせて頂くなどして、相互の支援にズレがないように情報共有に務め、通り方や移行方法の確認等をおこなっています。

7 早期の支援体制

早期の支援体制として、フォロー教室、ひまわり児童部門との連携を図ることにより、今年度は8名の児童の利用に繋がりました。また南足柄市の子育て拠点「にこっと」が新設されたことと、フォロー教室への保育士派遣も行うことにより更なる連携強化にも繋がってきています。また、市内の保育園・幼稚園との個別のケースを通しての情報共有の機会を持つことにより、気になる子の相談等にも応じることで、「くまさん教室」の周知が広がる状況になってきています。

8 人材育成

前年度に引き続き、教室内では臨床心理士を中心に、月毎の療育内容の振り返りや児童に対する支援方法の見直しをおこなってきました。職員に対しては法人の内部研修や外部研修への積極的な参加を促すと共に、研修後に職員間で共有をすることにより、支援体制の充実に繋がることとなりました。

各部門別事業実施状況

<資料> (令和5年3月31日現在)

<重症心身障害児(者)施設 各部門利用状況>

【表1】長期入所

定員 47 人	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度 (定員 48 人)
4/1 在籍 (人)	47	47	46
3/31 在籍 (人)	47	46	48
実利用者 (人)	48	49	50
医療ケア度	内/準超重症児者 9 名	内/準超重症児者 9 名	内/準超重症児者 9 名
年内延数 (人)	16,890	16,791	16,960
稼働率 (%)	98.4	97.8	96.8

※ベッド稼働率=延数計÷(定員×【4月～3月総日数 365日】)×100

※令和4年度より中期枠1床を長期枠へと変更したため、定員が48名となっています。

【表2】中期入所

定員 3 人	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度 (定員 2 人)
4/1 在籍 (人)	1	1	2
3/31 在籍 (人)	2	2	2
実利用者 (人)	4	4	4
医療ケア度	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 1 名	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 1 名	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 2 名
年内延数 (人)	638	690	625
稼働率 (%)	58.2	63.0	85.6

※令和4年度より中期枠1床を長期枠へと変更したため、定員が2名となっています。

【表3】短期入所

定員2人	令和2年度	令和3年度	令和4年度
4/1在籍(人)	1	2	0
3/31在籍(人)	2	0	1
実利用者(人)	20	17	23
医療ケア度	内/超重症児者 1名 内/準重症児者 6名	内/超重症児者 1名 内/準重症児者 6名	内/超重症児者 1名 内/準重症児者 6名
年内延数(人)	355	349	322
稼働率(%)	48.6	47.8	44.1

■総計(長・中期 短期)

定員52人	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年内延数(人)	17,882	18,259	17,907
稼働率(%)	94.2	96.2	94.3

令和4年度 太陽の門 日中活動実績表

【表4】目的別活動月別参加者

活動/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延
陶芸活動	回数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	人数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミリアカ	回数	-	1	1	1	1	1	1	1	-	-	1	1	9
	人数	-	☑全員	☑全員	☑全員	4	☑全員	☑全員	☑全員			☑全員	☑全員	4 + α
リラクゼーション 光×	回数	-	1	1	1	1	1	1	-	-	1	-	-	7
	人数	-	3	3	5	3	3	3	-	-	3	-	-	23
めぐでる会	回数	-	1	1	-	1	-	-	1	-	-	1	-	5
	人数	-	6	4	-	6	-	-	6	-	-	6	-	28
おいらんぼ クラブ	回数	-	1	2	1	-	1	1	1	-	2	2	1	12
	人数	-	3	1 1	4	-	3	3	4	-	7	10	4	49
粗大運動	回数	-	1	1	1	-	1	1	1	-	1	1	1	9
	人数	-	5	6	4	-	5	6	5	-	1	6	5	43
サークル 音楽	回数	-	1	1	-	-	-	1	2	-	-	1	1	7
	人数	-	3	4	-	-	-	6	8	-	-	3	4	28

※外部講師による陶芸とピアノ演奏会については新型コロナウイルスの感染対策のため実施できず。

【表5】目的別外出

内容	行先	参加回数	参加人数
春の散歩・ドライブ月間 (4~5月)	小田原周辺 ※施設周辺商業施設等への立ち寄りせずに実施。人がいない場合に限り降車。	10	29
秋の散歩・ドライブ月間 (10~11月)	小田原周辺 ※施設周辺商業施設等への立ち寄りせずに実施。人がいない場合に限り降車。	5	23
北条五代祭り	小田原市内	中止	0
箱根病院花火大会	箱根病院	中止	0
市役所コンサート	小田原市役所	中止	0
個別グループ外出 ※ドライブ/感染予防対策として人ごみを避けて降車した。	酒匂海岸(ドライブ)	8	37
	小田原周辺 一夜城方面(ドライブ)		
	箱根方面(ドライブ)		
	湘南平・湘南方面(ドライブ)		
	開成 あじさい方面(ドライブ)		

【表6】主な小集団活動

月	4月		5月			6月	7月	
内容	グループ活動	グループ活動	端午の節句	グループ活動	グループ活動	ランチ会	グループ活動	グループ活動
場所	デイルーム	家族室前	各デイルーム	家族室前	中央デイルーム	S側デイルーム	4Fテラス	N側デイルーム
参加者	11	12	全員	10	12	2	13	9

月	8月					9月		
内容	流しそめん大会	カキ氷大会	盆踊り大会	グループ活動	花火大会①	花火大会②	流しそめん大会	花火大会③
場所	S側デイルーム	各デイルーム	各デイルーム	N側デイルーム	301教室前の駐車スペース	301教室前の駐車スペース	N側デイルーム	301教室前の駐車スペース
参加者	S側全員	全員	全員	15	2	4	N側全員	4

月	9月						
内容	花火 大会④	花火 大会⑤	敬老会	グループ 活動	花火 大会⑥	花火 大会⑦	花火 大会⑧
場所	301 教室 前の駐車 スペース	301 教室 前の駐車 スペース	各居室	4Fテラス	301 教室 前の駐車 スペース	301 教室 前の駐車 スペース	301 教室 前の駐車 スペース
参加者	4	4	7	1 2	4	5	4

月	10月						
内容	グループ 活動	グループ 活動	グループ 活動	花火 大会⑨	花火 大会⑩	花火 大会⑪	ランチ会
場所	ドライブ	ドライブ	足湯	301 教室 前の駐車 スペース	301 教室 前の駐車 スペース	301 教室 前の駐車 スペース	4F 休憩室前
参加者	9	3	3	6	4	4	4

月	10月			11月			
内容	ドライブ	ハロウィン お茶会	秋祭り	グループ 活動	エステ 企画	焼き芋 大会	グループ 活動
場所	小田原 近隣	家族室	3F 入所 スペース	ドライブ	家族室	各デイ ルーム	ドライブ
参加者	2	4	全員	3	2	全員	6

月	12月	1月			2月		
内容	クリ スマス会	駅伝観戦	グループ 活動	グループ 活動	エステ 企画	グループ 活動	個別活動 オシャレ
場所	各デイ ルーム	各デイ ルーム、 居室	デイルーム、 居室	4F 家族室、 休憩室前	家族室	S 側デイ ルーム	N 側デイ ルーム
参加者	全員	全員	N 側全員	1 4	2	S 側全員	3

月	2月		3月				
内容	フラワー アレンジ	グループ 活動	ひな祭り	グループ 活動	フラワー アレンジ	グループ 活動	個別活動 パン作り
場所	S側デイ ルーム	N側デイ ルーム	各デイ ルーム	S側デイ ルーム	S側デイ ルーム	N側デイ ルーム	S側デイ ルーム
参加者	2	13	全員	14	2	10	2

月	3月		
内容	S側活動 ケーキ バイキング	卒業式	デザート会
場所	S側デイ ルーム	N側デイ ルーム	居室301前
参加者	S側全員	N側全員	3

<風祭事業部>

1 デイサービス

【表7】利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数	21日	19日	22日	21日	21日	22日		
延べ利用者数	263名	227名	261名	260名	252名	265名		
利用者数/日	12.5名	11.9名	11.9名	12.4名	12.0名	12.0名		
登録者数	37名	37名	38名	38名	38名	38名		
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度合計
開所日数	21日	22日	21日	19日	20日	23日	252日	251日
延べ利用者数	266名	277名	249名	235名	250名	283名	計3,088名	計3,125名
利用者数/日	12.7名	12.6名	11.9名	12.4名	12.5名	12.3名	平均12.3名	平均12.5名
登録者数	38名	38名	38名	38名	38名	38名	平均37.8名	平均39.7名

【表8】日中活動の状況

活動項目	実施日数	参加利用者数	活動項目	実施日数	参加利用者数
制作	65日	857名	リクエスト活動会議	25日	329名
園芸	35日	466名	リクエスト活動	31日	406名
スポーツ	67日	632名	料理	5日	65名
お楽しみ活動	57日	742名	ハロウィン	6日	86名
夏祭り	5日	63名	クリスマス	5日	57名

2 放課後等デイサービス

【表9】放課後等デイサービス「きゃんばす」利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数	21日	19日	22日	21日	21日	22日		
延べ利用者数	101名	98名	107名	97名	101名	100名		
利用者平均	4.8名	5.2名	4.9名	4.6名	4.8名	4.5名		
登録者数	16名	17名	17名	17名	17名	17名		
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度合計
開所日数	21日	21日	21日	20日	20日	23日	252日	252日
延べ利用者数	91名	91名	99名	105名	84名	123名	1,188名	1,194名
利用者平均	4.3名	4.3名	4.7名	5.3名	4.2名	5.3名	平均4.7名	平均4.7名
登録者数	17名	16名	16名	16名	16名	16名	平均16.5計	平均15.5名

【表10】放課後等デイサービス「きゃんばす」日中活動の状況

活動項目	実施日数	参加利用者延数	活動項目	実施日数	参加利用者延数
季節行事(七夕・Xmas等)	35日	161名	料理活動	17日	72名
避難訓練	10日	42名	散歩・買い物	24日	89名
スポーツ活動	16日	64名	音楽・手遊び	5日	30名
制作(布染め・リース・書初め 季節の壁面等)	55日	249名	光遊び・リラクゼーション	12日	43名
個別課題活動	100日	461名	園芸活動	11日	38名
リクエストメニュー	6日	33名	お楽しみ会等	4日	27名
大掃除	4日	18名			

<地域支援センター>

1 ヘルパー事業

【表11】事業別実績時間

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	前年度計
居宅介護事業 (内あんしんネット)	90.5 (28)	90 (13)	62 (11.5)	68.5 (11)	76 (5)	82.5 (12)	469.5 (80.5)	498 (71)
同行援護	0	2	2	0	0	0	4	5.5
重度訪問事業	0	0	0	0	0	0	0	0
移動支援事業	13	32.5	40.5	23.5	23.5	38.5	173.5	162.5
私的契約	3	1	3.5	2	0	0.5	10	4.5
月合計	106.5	125.5	108	94	101.5	121.5	上総時間 657	上総時間 670.5

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	前年度計
居宅介護事業 (内あんしんネット)	106 (27.5)	71.5 (14.5)	102.5 (11)	66.5 (4)	89.5 (10)	95.5 (8)	531 (75)	484.5 (104)
同行援護	0	2	2	2	0	1.5	7.5	8
重度訪問事業	0	0	0	0	0	0	0	0
移動支援事業	35.5	45.5	68.5	58.5	71	81.5	360.5	127.5
私的契約	0	0.5	0.5	0	0.5	1	2.5	10.5
月合計	141.5	119.5	173.5	127	161	179.5	総時間 902	総時間 630.5

【表12】日中一時

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	前年度計
日中一時(回)	2	0	1	4	3	1	11	10
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	前年度計
日中一時(回)	3	4	4	0	3	2	16	7

【表13】有償運送実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	前年度計
回数(回)	18	22	23	16	9	22	110	122
距離(km)	303.1	148.5	231.3	168.2	42	170.4	1063.5	849.6
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	前年度計
回数(回)	22	17	31	15	23	22	130	77
距離(km)	61.9	51.8	96.3	40.1	71.7	97.8	419.6	630.5

2 相談室

【表14】 計画相談支援実績

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期実績計	
サービス等利用計画 作成	児	4	2	7	1	0	1	15	
	者	8	7	4	4	9	5	37	
モニタリング報告書 作成	児	1	0	2	1	1	3	8	
	者	36	15	131	27	26	38	155	
合計		49	24	26	33	36	47	215	
月		10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期実績計	今年度実績合計
サービス等利用計画 作成	児	1	3	0	2	6	10	22	37
	者	7	6	3	5	4	15	40	77
モニタリング報告書 作成	児	7	6	3	6	8	13	43	51
	者	36	23	20	19	39	51	188	343
合計		51	38	26	32	57	89	293	508

※前年度実績合計件数:401件

【表15】 令和4年度 在宅重症心身障害児者訪問等指導事業実績

実施日		訪問先	件数	訪問者	訪問者	訪問者	訪問者
				医師	PT	OT	相談員
11月	8日	自宅	1件	0名	1名	1名	0名
3月	2日	自宅	1件	0名	0名	0名	1名
合計			0件	0名	1名	1名	1名
派遣日数			2日				
延べ派遣人数			3名				

3 地域活動支援事業

【表16】 利用状況等

	開所日数	登録者	延べ利用者(内、児童)	1日あたり利用人数
4月	19日	74名	131名(14名)	6.9名
5月	19日	74名	138名(7名)	7.3名
6月	22日	77名	149名(14名)	6.8名
7月	20日	77名	133名(13名)	6.7名
8月	22日	79名	157名(17名)	7.1名
9月	20日	78名	150名(16名)	7.5名
10月	20日	78名	159名(19名)	8.0名
11月	20日	81名	154名(17名)	7.7名
12月	19日	80名	161名(17名)	8.5名
1月	19日	82名	152名(25名)	8.0名
2月	19日	86名	156名(29名)	8.2名
3月	22日	85名	177名(39名)	8.0名

【表17】 関係機関・事業所との連携

会議名(参加形態)	回数
利用者のモニタリング、ケース会議への出席等 (対面・オンライン)	134回
委託相談支援事業所との連絡会(オンライン)	12回
県西障害保健福祉圏域障害者自立支援協議会 (対面・オンライン)	2回
足柄上地区自立支援協議会 代表者会議(対面)	1回
小田原保健福祉事務所足柄上センター 地域移行推進会議(オンライン) 域精神保健福祉連絡協議会(書面)	2回
精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム協議会(仮)準備会議 (対面)	1回
南足柄市専門職情報交換会 (対面)	2回
地域活動支援センター事業連絡会(オンライン)	2回

4 児童発達支援事業

【表18】南足柄市障害児通園施設「くまさん教室」利用実績

月(前期)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
開所日数	19日	18日	21日	18日	20日	18日	114日
さくらんぼ組児童数	49名	69名	78名	66名	68名	73名	403名
みかん組童数	35名	30名	32名	26名	27名	41名	191名
延べ利用者数	84名	99名	110名	92名	95名	114名	計 594 名
月(後期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	18日	19日	19日	18日	17日	20日	111日
さくらんぼ組児童数	82名	69名	91名	85名	84名	103名	514名
みかんくみ児童数	30名	47名	42名	45名	45名	47名	256名
延べ利用者数	112名	116名	133名	130名	129名	150名	計 770 名

【表19】くまさん教室令和4年度行事等参加者実績

月(前期)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
げんきくらぶ	19名(5回)	18名(5回)	19名(5回)	14名(4回)	14名(4回)	21名(5回)	105名
おんぷくらぶ	12名(5回)	35名(7回)	23名(7回)	14名(6回)	23名(6回)	25名(7回)	132名
りんごくらぶ	1名(1回)	4名(1回)	6名(2回)	9名(2回)	なし	8名(2回)	28名
親子登園	6名(1回) 母5・妹1	9名(1回) 母7・妹1	4名(1回) 母4	10名(2回) 母6	なし	5名(1回) 母4	34名
保護者会	5名(1回) 母4・妹1	6名(1回) 母3	6名(1回) 母3	4名(1回) 母3	2名(1回) 母2	4名(1回) 母3	27名
ボランティア	なし	4名(1回) ボラ2名	5名(1回) ボラ1名	7名(1回) ボラ2名	7名(1回) ボラ1名	2名(1回) ボラ2名	25名
避難訓練	7名(2回)	7名(2回)	7名(2回)	6名(2回)	7名(2回)	8名(2回)	42名
延べ人数	50名	83名	70名	64名	53名	73名	393名
月(後期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
げんきくらぶ	16名(4回)	18名(5回)	22名(4回)	21名(4回)	26名(5回)	28名(5回)	131名
おんぷくらぶ	24名(6回)	29名(7回)	27名(7回)	27名(7回)	23名(6回)	26名(7回)	156名
りんごくらぶ	4名(1回)	3名(1回)	8名(1回)	6名(1回)	11名(2回)	11名(2回)	43名
親子登園	5名(1回) 母4	なし	個別参観	9名(2回) 母8	15名(3回) 母7	10名(2回) 母8・弟1	30名
保護者会	6名(1回) 母4	4名(1回) 母3	なし	8名(1回) 母6・弟1	16名(3回) 母12	5名(1回) 母3・弟1	28名
ボランティア	6名(1回) ボラ1	4名(1回) ボラ2	8名(1回) ボラ3	3名(1回) ボラ3	7名(1回) ボラ2		28名
避難訓練	11名(3回)	11名(2回)	7名(2回)	8名(2回)	10名(2回)	6名(2回)	53名
延べ人数	72名	69名	72名	82名	108名	86名	496名

<共通部門>

1 委員会開催状況

委員会	開催回数	検討内容
経営会議	12回	財務・事業の基本方針等重要事項審議
運営会議	12回	経営会議報告、提案・改善事項等の審議
衛生委員会	12回	職員の安全、衛生に関する情報を把握し対応を検討
医療安全管理委員会	12回	医療事故等の未然防止策の審議
コロナ対策委員会	12回	対応策の検討・情報収集
感染対策委員会	12回	感染の予防対応に関して検討
褥瘡対策委員会	12回	褥瘡の予防対応に関して検討
薬事委員会	12回	医薬品に関する事案の検討、確認。
給食委員会	12回	食事、栄養関係の全体での報告、検討
研修委員会	9回	研修全体の計画実行
リスクマネジメント委員会	12回	事故等に関する対応対策を評価
権利擁護虐待防止委員会	6回	施設利用者の人権擁護等
防災対策委員会	11回	防火管理、防災訓練に関して検討
広報委員会	1回	広報紙、掲示板の活用検討

2 研修実施状況(出席者・延べ 389名)

□上半期の期間に企画・実施した研修

研修名	日時	参加数	講師及び内容
摂食指導研修	4/8 12:15~15:30 5/13 12:15~15:30 6/10 12:15~15:30 ※8月は感染拡大予防のため中止 7/8 12:15~15:30 8月中止 9/9 12:15~15:30 計(延)	3名 3名 3名 3名 3名 15名	神奈川歯科大学 歯科医師 赤坂 徹 氏 毎回利用者の中から3名の機能や問題点、適切な介助方法や食事形態について指導を受ける。
法定研修 (感染対策研修) 「食中毒を防ごう」	5/11 5/12 5/13 5/16 5/17 5/18 5/26 5/28 6/1 6/2 6/3	77名	管理栄養士 坂本加代子氏 食品衛生観点からの感染予防について
感染対策研修 手洗いチェック	5/11 5/18 8/28 9/10 9/18	38名	管理栄養士 坂本加代子氏 手洗いチェッカーを使用したの実技研修
新人職員研修	5/30 9:30~17:30 6/13 9:00~12:00	4名	研修委員長、大友センター長他 「理念、歴史、沿革」他

	6/13 ZOOM 開催	5名	管理栄養士 山崎 彩 「施設における栄養管理 について」
	6/13	1名	講師：石黒 内容：医薬品安全使用について
リスクマネジメント研修 SELL 分析法を用いた分析	6/3 14:30~15:30	14名	リスクマネジメント委員長 加藤裕次郎 リスクマネジメントの必要 性と発生事案の分析方法
救急カート内の薬 について	7/15	1名	講師：石黒 内容：てんかん重積時に使用する薬について
感染対策研修 手洗いチェッカー による手洗い研修	8/17~9/30	119名	手洗いチェッカーを用いての 手洗い方法についてその確認。 方法についてはポスターを参 照して委員が指導を行う。
医療安全研修 エピペンの使い方 について	8/22 14:30~14:45 8/24 14:40~15:00 8/26 10:30~10:45 8/29 10:30~10:45	2名 18名 6名 9名 計 33 名	薬剤師 石黒優子氏 薬剤からの説明とトレーニン グ用エピペンを用いた演習。
虐待防止研修（録 画視聴）	9/12 9/14 9/15 9/17 9/18 9/19 9/20 9/21	48名	障がい者虐待防止研修 講師 大友センター長 障がいのある方の権利擁護に ついて理解を深める
救急カート内の薬 について	9/16	1名	講師：石黒 内容：てんかん重積時に使用する薬について

□下半期の期間に企画・実施した研修

医療的ケア研修 医療的ケア研修セ	11/3 9:30~17:30	2名	岩手医科大学 亀井淳氏他 医療的ケア児支援、家族や
---------------------	-----------------	----	------------------------------

ミナー (WEB)			きょうだいへの支援について、学校での医療的ケア児支援の実施状況や課題について等
リスクマネジメント研修 SELL 分析法を用いた分析	3/30 14:30~15:30	4名	リスクマネジメント委員長 加藤裕次郎 リスクマネジメントの必要性和発生事案の分析方法

□外部機関研修受講

第4回NPO法人褥瘡サミット 皮膚褥瘡外用薬学会学術集会	6/11~6/12	1名	講師：愛生館小林記念病院褥瘡ケアセンター長 古田勝経先生など 内容：薬剤師としての褥瘡との関わりと薬物療法
作業療法 現職者選択研修 発達障害領域	7/31	1名	講師 作業療法士会 内容 ・作業療法の実際 ・自閉症スペクトラム障害児に対する作業療法の実際 ・発達障害領域の基礎知識と作業療法の課題と展望
日本作業療法学会	9/16-18	1名	講師：日本作業療法学会 学会長 村田和香先生など 「持続可能な社会を創る作業療法」 基調講演、シンポジウム、セミナーなど
WEB 研修 「重症心身障害児(者)施設での栄養アセスメント、食事療法」	9/16 9/23	10名 4名 計14名	方城福祉会 病態栄養専門管理栄養士 松岡修史氏 栄養障害のスクリーニングの意義、具体的栄養アセスメント、栄養療法の選択について
作業療法 現職者共通研修	9/25	1名	講師 作業療法士会 内容 職業倫理
令和4年度特定給食施設等栄養管理講習会(小田原保健	9/27 動画配信	1名	文教大学 健康栄養学部 管理栄養学科 笠岡 誠一氏

所)			「食の多様性への対応 ～ハラルを中心に～」
WEB研修 BCP研修 障害者支援施設な どにおける感染症 に関する業務継続 計画の策定などに 係わる研修会	9/28 14:00～16:00	1名	神奈川県福祉子ども未来局福 祉施設グループ 感染症の基本理解、BCP基本理 解
Otsuka Nutrition Webinar (Web)	10/20	1名	講師：大阪母子医療センター 恵谷ゆり先生など 内容：重症心身障害児の栄養 マネジメント
令和4年度県下統 一調剤事故防止研 修会	10/20	1名	講師：小田原保健福祉事務所 後藤真奈美先生など 内容：行政に寄せられた意見・ 苦情、注意事項等について
令和4年度特定給 食施設等栄養管理 講習会（小田原保健 所）	11/21 動画配信	1名	神奈川県立循環器呼吸器病 センター 栄養管理長 磯部 宏子 氏 「給食における食物アレルギー 対応について～基礎知識か ら最新情報まで～」
令和4年度全国重 症心身障害児者施 設職員研修会「医療 技術管理コース」	11/27	1名	講師：大阪発達総合療育セン ター 船戸正久先生など 内容：医療型障害児入所施設 における倫理的課題、薬剤師 分科会で報告会と情報交換
第47回重症心身障 害学会学術集会	12/1～12/2	1名	内容：各施設での症例報告な ど
がん疼痛緩和のた めの医療用麻薬適 正使用推進講習会	1/14	1名	講師：独立行政法人国立病院 機構米子医療センター 八杉 晶子先生など

(Web)			内容：緩和医療への薬剤師の関わりと麻薬の適正管理について
令和4年度平塚中郡薬剤師会褥瘡研修会	2/5	1名	講師：愛生館小林記念病院褥瘡ケアセンター長 古田勝経先生 内容：褥瘡におえる薬剤師の役割、上層モデルを使用した処置方法の実習

3 事故・ヒヤリハット件数

(1) 重心施設

種別	内容	件数
事故 38件	抜薬	13
	温冷配膳車のコードかけ部分に頭部をぶつけて裂傷（職員）	1
	内出血（利用者）	4
	眼瞼から眉間にかけての腫脹（利用者）	1
	誤薬	1
	右足1趾爪下血腫（利用者）	1
	外用薬紛失（利用者）	1
	右下腿内側発赤（利用者）	1
	右耳から出血（利用者）	1
	踵の裂傷（職員）	1
	気切カニューレ抜去（利用者）	1
	額の怪我（利用者）	1
	気切カニューレのカフ air 抜けによるカニューレ交換	1
	膣内裂傷	1
	短期利用者私物の（テレビリモコン）破損	1
	抜薬	4
	誤薬	2
	利用者膝の腫脹	1
15時の補食間違い	1	
ヒヤリハット 57件	汚物除去機に異物混入	1
	車いす用クッションのバックル紛失	1

ベッド柵に利用者の右手が挟まる	1
利用者の食事配膳ミス	1
異食ある利用者への環境設定不備 (ベッド内にてカーテンで遊んでいた)	1
遅薬	3
職員が内服している錠剤の落とし物	1
冷蔵ジュースの常温保存	1
利用者同士の配置ミス	1
気切内筒の紛失	1
利用者の歯が抜けていた	1
ランドリー異物混入	2
利用者衣類のボタンがベッド内に落ちていた	1
利用者の足がベッド柵に挟まっていた	1
利用者が窓ガラスに頭部をぶつけた	1
ベッド柵上げ忘れ	3
爪切り紛失	1
ベッド内自力で腹臥位姿勢になっていた	1
擦過傷	2
利用者が一人で車いすへ乗車	1
爪切りで皮膚を切る	1
利用者が他利用者の顔を触っている	1
ベッド柵のロックし忘れ	1
ベッド柵上げ忘れ	5
スタイのボタン紛失	1
利用者車椅子のタイヤバブルの紛失	1
落とし物	8
スタイが車いすの背もたれと一緒に結ばれていた	1
洗濯物異物混入	2
利用者がベッド柵ロックを外していた	1
内出血	2
薬カードの記載と配られた薬が違う	1
利用者が使用済みオムツを手に持ち噛んでいた	1
2人の利用者の薬をシリンジに混合させてしまった	1
短期利用者の薬の返却し忘れ	1
利用者が未開封のおもちゃで遊んでいた	1
中期利用者の私物返し忘れ	1

	活動中オーブントースターのクッキングペーパーを燃やしてしまう	1
--	--------------------------------	---

薬局

種 別	内 容	件 数
事故 2件	利用者様の朝と夕の薬を間違えて配薬セットしたため、5日間朝夕を逆に服用した。	1
	調剤時の機械操作ミスのため、抗生剤の1回量を多く調剤してしまった。	1
ヒヤリハット 2件	薬の錠数を間違えて調剤した	1
	異物混入に気づかず払いだした	1

厨房

種 別	内 容	件 数
ヒヤリハット 12件	異物混入（毛髪等の混入、食器の汚れの付着等）	5
	誤配膳（禁忌食材の提供・食形態の誤配膳）	6
	食数の伝達ミス	1

リハビリ部門

種 別	内 容	件 数
事故 1件	アイロン使用中に火傷を負わせてしまった	1
ヒヤリハット 4件	床上に倒れて、児童用椅子にぶつかってしまった	1
	おもちゃを噛んで破損してしまった	1
	予約の確認不足があり、別スタッフによるリハの実施	1
	歩行訓練中の転倒	1

風祭事業部(デイサービス・放課後等デイサービス)

種 別	内 容	件 数
事故 16件	利用者の NG チューブが抜けた	1
	利用者の注入中ボトルより輸液セットのチューブが抜けた。	1
	利用者の注入中に点滴台が倒れた。	1
	利用者が呼吸状態悪化により体調急変	1
	利用者がバランスを崩して転倒した。	1
	利用者の私物破損。	2
	職員の怪我(トランスの際に腰を痛めた。)	1
	職員の怪我(送迎車内の補助席を出す際に手を挟んだ)	1
	車両事故(バックで外壁に接触して左後部を破損し	1

	た)	
	機械浴の破損	2
	機械浴の故障	1
	食事を落としてしまった。	1
	食数表の数え間違い	2
ヒヤリハット 24件	利用者の物品返却忘れ	2
	利用者の鞆を自宅に忘れてしまった。	1
	利用者の車いす操作を間違えた。	1
	利用者の状態に気づかず介助をしてしまった。	1
	利用者の呼吸器付け忘れ	1
	利用者が送迎中の車内で自分でベルトを外した。	1
	利用者の送迎対応変更曜日を間違えた。	1
	利用者の物品返し間違い	4
	利用者のバルーンカテーターが折れていた。	1
	利用者の靴の履き替え忘れ	1
	利用者が呼吸器の利用者に近づいて流涎を拭いていた。	1
	車いす利用者のベルト忘れ	1
	車いす利用者同士の足の接触	1
	ご家族より依頼されていたことが守られていなかった。	1
	送迎中ワイヤーロックの固定忘れ	1
	送迎ボードの送迎順番間違い	1
	ドライバーが床に落ちた状態で作動していた。	1
洗濯物異物混入	3	

地域支援センター

種別	内容	件数
事故 2件	送迎有無についての認識のズレにより、利用者を送迎場所で待たせてしまった	1
	公用車(アルト)と民間車の接触事故	1
ヒヤリハット 3件	利用者の突発的な行動への対処の遅れ	2
	児童引き渡し時の確認不足	1

4 防災訓練

日時	部署	訓練内容
4月 1日 25日 27日	診療課、放デイ 重心施設、全体 デイ	部署別の避難訓練・消火訓練
5月 2日 23日 27日	放デイ 重心施設、全体 デイ	部署別の避難訓練・消火訓練
6月 3日 27日 29日	診療課、放デイ 重心施設、全体 デイ	部署別の避難訓練・消火訓練
7月 18日 25日	放デイ 全体	部署別の避難訓練 消火訓練
7月 29日	全体	総合防災訓練・通報訓練
8月 19日 25日 31日	診療課 デイ 放デイ	部署別の避難訓練 ※職員コロナ感染により施設部訓練中止
8月 30～ 9月 5日	全体	職員安否確認訓練
9月 2日 7日 11日 26日 28日	診療課 放デイ 事務課（自治会参 加） 重心施設 デイ	部署別の避難訓練・消火訓練
10月 12日 24日 26日 31日	診療課 重心施設、全体 デイ 放デイ	部署別の避難訓練・消火訓練
11月 4日 14日	診療課 放デイ	部署別の避難訓練・消火訓練
11月 21日	全体	*総合防災訓練・避難訓練
12月 14日 26日 27日	放デイ 重心施設 デイ	部署別の避難訓練・消火訓練
1月 5日 23日 27日	診療課 重心施設 放デイ	部署別の避難訓練

30日	デイ	
2月3日	診療課	部署別の避難訓練
23日	デイ	
24日	放デイ	
27日	重心施設	
3月1・15日	全体	利用者家族安否確認訓練
3月3日	診療課	地震想定避難訓練・消火訓練
13日	放デイ	
27日	重心施設	
30日	デイ	

5 実習生の受入れ状況 ※

種別	学校	期間	人数
保育士	大原学園保育専門学校	6/6-18	1名
	鶴見大学短期大学部	キャンセル	
	小田原短期大学	8/16 - 8/28	中止
	鎌倉女子大学短期大学部	10/17 - 10/29	1名
		9/17-9/29	1名
	和泉短期大学	キャンセル	
	湘北短期大学	3/6-3/18	1名
介護福祉士	神奈川福祉専門学校	9/14-16	1名
計			5名

※鶴見大学短期大学部については、上半期（8月）対象の学生がおらずキャンセルの連絡あり。下半期（2月）については、学生自身のワクチン接種が出来ないとの連絡があり、お断りする形となった。

鎌倉女子大学短期大学部は、感染症拡大の影響の為、受け入れ時期を変更して実施した。小田原短期大学は、感染症拡大の影響の為、受け入れ時期の変更を提案したが、日程が合わずキャンセルとなった。

和泉短期大学は、予定されていた日程で、実習対象者がおらずキャンセルとなった。